

農の架け橋 地域と共に

— 白子町農業委員会だより NO. 47 —



令和3年10月
編集・発行/
白子町農業委員会

農業委員及び農地利用最適化推進委員を皆さんに紹介します。

長生トマトを応援して欲しい…

白子町幸治 石和田 喜明 さん（農地利用最適化推進委員）

長男だった自分が将来、トマト農家を継がなければいけないという思いがあって、東京農業大学農学部を平成10年に卒業後、就農したという石和田さん。平成18年に父親から経営移譲を受け以来経営主としての手腕を発揮。現在のトマト作付面積は約1,500坪で、生産量も良い時は10aあたり約23tを超え、地域では既に中核的な農家となっています。

「農業は工夫次第でお金儲けが出来る。自分も平成27年に従来の土耕栽培から養液栽培（ヤシガラ培地耕）に変えた事で、収量が増え土壌消毒の手間が減り作業効率も上がった。もちろん、初めての養液栽培は失敗も多く、最初から全てが上手くできた訳ではないけど、その都度、課題を乗り越えてきた。トマトを栽培の途中で諦めた事が一度も無かった事が今の自信に繋がっています。」と語ってくれました。

農協青年部白子支部長を務める他にも農業士として新規就農者の指導を行い、多忙の日々を過ごす中「今後の目標は、トマトのより一層の安定生産に向けて、現在の春・抑制の年2作型だけでなく、年1作の長期取りにも挑戦したい。」と意欲的。また昨年、町内若手生産者で次世代施設園芸研究協議会を立ち上げ、生育調査や圃場の巡回を実施する等、仲間と共に栽培技術の向上を目指している。



「生産費は年々上昇していて大変だけど、自分の作ったトマトを消費者の皆さんが購入し、美味しいと喜んでくれることが何より嬉しい。」そこに仕事のやりがいを感じている。

最後に、「何か皆さんに伝えたいことがありますか？」と質問したところ、「地元の長生トマトを是非ご賞味ください。」と笑顔でトマトのPRをする石和田さんに、「美味しいトマトへの自信」と「消費者の皆さんに届けたい」という熱い思いが強く感じ取れました。



養液栽培（ヤシガラ培地耕）

〇農業を始めるにあたって

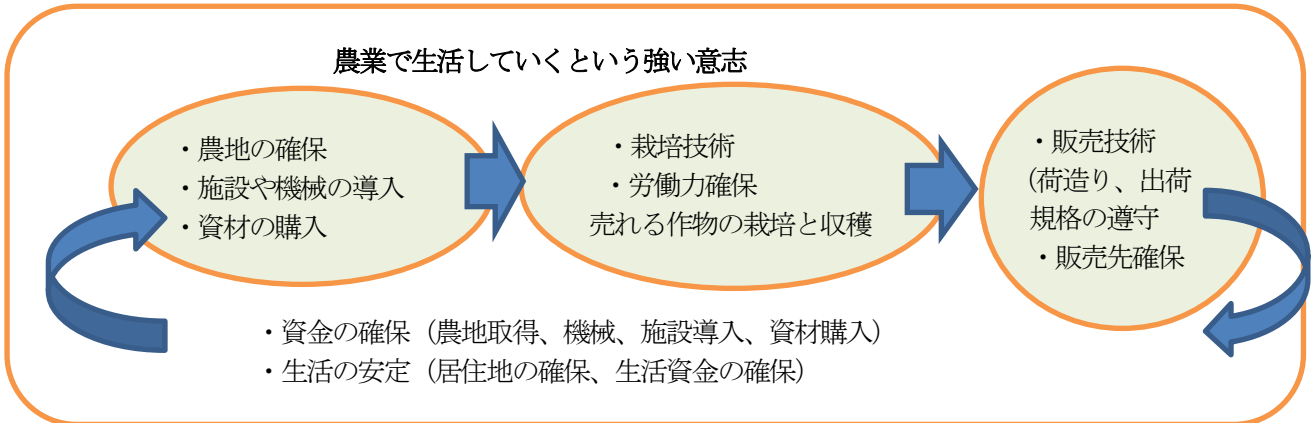
就農するという事は、起業し経営者となることです。「農業をやれば自然の中で暮らせる」とか、「サラリーマンには向かないから」といった漠然とした考えでは成功しません。

就農には様々な課題が待ち受けており、それを乗り越えて行くためには、「一生の仕事として農業をやる」という強い意志が必要です。作物を栽培し、収穫し、出荷、販売して初めて収入が得られます。そのために研修等で技術・知識を身に付けておき、安定的な生産を行うための労働力の確保、安定した販売先など全てが揃って、経営が成り立ちます。

また、栽培を開始してから収穫物を販売するまでの期間は収入が無く、時には、天災により想定外の出費が発生することや、病害虫の発生などにより収入が得られないこともあります。そのために、当面の生活費も用意しておかなければなりません。

さらに、農村社会で生活することに対する家族の理解や、時には夏の炎天下で一日中農作業ができる体力と気力も必要です。

就農する際は、このようなことをしっかりと検討しておく必要があります。



千葉県では、温暖な気候と首都圏という立地条件から、古くから様々な作物の栽培が行われており、数多くの産地があります。様々な産地があるということは、新規に農業を始める皆さんにとっては、何を生産するにも先生がいるということで、大きなメリットとなります。

【経営作目ごとの大まかな紹介】

稲作	トラクター、田植え機、コンバインといった機械類や乾燥調製施設など、大きな初期投資が必要です。また、水管理や水路清掃など集落との結びつきも大切です。
野菜	<露地>：畑で栽培を行います。初期投資は比較的少なくすみませんが、大きな面積を必要とするものが多く、栽培にはトラクターなどの機械や労働力の確保が必要です。 <施設>：ハウスの中で栽培を行います。高度な栽培技術に加え、ハウス建設、給水、暖房設備導入といった初期投資と、暖房費などのランニングコストもかかるため、きちんとした技術習得と資金を要します。
花き	主に施設で栽培されています。切花、鉢花、観葉、苗ものなど、多種多様な品目があり、それぞれに合った設備が必要です。高度な栽培技術と資金を要する作目です。
果樹	苗を植えてから収穫までに数年を要します。高度な栽培技術に加え、借地では栽培できないこともあります。
畜産	酪農、肉牛、養豚、養鶏、ブロイラーといった畜種によって、経営方法が全く異なります。千葉県は全国有数の畜産県ですが、高度な飼養技術が必要なうえ、初期投資とランニングコストが非常に大きいため、新たに開始するのが難しい部門です。